



## 関西学院創立100周年記念

### ■INTERVIEW

# 宮田満雄関西学院長に聞く キリスト教主義に よる国際人の養成

米国・南メソジスト監督教会の宣教師、ウォルター・ラッセル・ランバースが、兵庫県荒原郡原田村（当時）に関西学院を設立したのは明治二十二年（一八八九）九月二十八日。ちょうど百年前である。創立百周年を記念して行事が組まれているが、十一月四日には、創立百周年記念式典が予定されている。

百周年に当たる今年、新たに関西学院長に就任された宮田満雄氏に、百周年を迎えるに際しての抱負をお伺いした。

関西学院が、神戸市灘区の前田の森に設立されて今年で百周年を迎えることになりました。今年には神戸市制も百周年。一口に百年と言いますが、これは大変に長い道程だったと思います。

私事になりますが、私の父は、明治三十一年に当時の普通学部に入り、また、私自身も昭和二十七年に高等部を出て大学に入りました。

現在関西学院の表向きの顔は、学生を一番多く抱えている大学にならざるを得ないと思います。しかし正確には、普通学部つまり現在の中等部门と神学部が百年を迎え

たと言ふことになりました。

関西学院の設立当時、英文の規約がありました。それは、コンスティテューション、つまり憲法、「関西学院憲法」ですね。その中に、普通学部（アカデミック・デパートメント）と神学部（ビブリカル・デパートメント）、この両者は、ともに優劣なしと明記されていました。

関西学院にとって一つの大きな節目だったのは、前田の森から現在の西宮市上ヶ原に移ったことです。その昭和四年当時、前田の森も今から比べれば、まだ開けてなかったでしょうが、ここ上ヶ原は、その頃の写真を見ると、要するに一面の畑。大変な決断でもって移転したと思います。

あの当時は、教授にも学生にも大学昇格への悲願があったようで、移転の三年後に大学令により、大学の設置が認可されました。いずれにせよ上ヶ原への移転が、関西学院の発展する一つのきっかけとなりました。

しかしながら戦争中は非常に大変だったようです。

一つのエピソードですが、戦争中に図書館の正面に掲げていた石のエンブレムを取り壊したんです。多分、当局からの圧力があったんだと思います。ところが、壊さ



れたエンブレムの断片を、一学生が郷里の鳥取の家まで、リュックサックに背負って持って帰っていたんです。この六月九日から十四日まで、阪急百貨店梅田店で、百年を回顧する「オール関西学院グラフィティ」が開催されましたが、そこでこの断片が展示されました。

戦争中は当局側の教育機関に対する締めつけと言いますか、監督が厳しく、その当時の関西学院の責任者の方々には非常なご苦労があったと思います。よく関西学院が、あの時代を持ちこたえ、今日まで来たことを思うと感慨深いものがあります。

ところで関西学院が、この百年の間に訴えて来たことは、キリスト教の主義によって、日本の青年を教育すると言うことです。それが今日まで、ずっと一本貫かれて来たところに意義があるのではないかと思います。

だから、いつの時代の卒業生でも、在学中に勉強したことは、必ずしも全部覚えていないけれど（笑）、キリスト教に基づいて、学生にアピールした部分は、割に卒業してから覚えておられる。これは二世紀目においても、関西学院が変わらず訴えつづければいけない部分だと思います。

さて、今後の問題としては、原田の森から上ヶ原へ移って飛躍したように、現状からさらに飛躍するためにはどうしたらいいかという大きな課題があります。

このたび理事長、院長、学長が、すべて新しく就任いたしましたから、この新体制が、どうやって実効を發揮するようにするのか、期待も大きいと思います。

もともと関西学院は、米国の宣教師によって建てられ、その当初から国際的色彩を強く持っていました。今やまさに国際化の時代ですから、その流れの中で、国際的な目配りの出来る人、国際的な事業や発想の出来る人など今後、どう国際的な人材を育成して行くか。これまでの伝統があるだけに、大きな課題になって来ると思います。

学内的には、大学の将来計画もあり、また、英語の関学への伝統を受け継ぐために、宣教師だけではなく、

外国人教師の増員も考えられています。この九月には、高等部の新学舎も完成します。

現在、関西学院の同窓会の会員は十三万人。各地に支部があり、熱心に同窓会活動をやっていたいています。

とくに神戸は、何と言っても関西学院発祥の地ですから、神戸支部の皆さんの間には、同窓会の「宝」だと言うような意識をお持ちになり、支部の伝統を守って来ておられるむきもあるのではないかと思います。

私自身は京城（現ソウル）生まれですが、母方の家族はずっと神戸で、祖母は神戸女学院の一回生なんです。ですから私も神戸には深い愛着を持っています。

今は西宮に移りましたが、関西学院の発祥の地は神戸だと言う思いが、神戸支部の皆さんには、ひとしお強いのではないのでしょうか。それだけに今後とも、活発な同窓会活動が神戸で行われることを期待しています。

最後になりますが、今後とも同窓会の皆さんには、色々のご協力をお願いしたりすると思いますが、お願いするばかりではなく、母校が関西学院であることを嬉しく思い、誇りに思えるような学校にするために、学内にいる者の責任を果して行きたいと考えております。

（院長室にて）

#### ■関西学院創立一〇〇周年記念事業

関西学院アートフェスティバル作品コンテスト案内

(1) テーマ / 「関西学院」

(2) ジャンル / 絵画（油絵、水彩画、スケッチなど）、版画、写真、工作彫刻は除く。未発表作品に限る。

(3) サイズ / 20号（72・7×60・6cm）位まで。

(4) 製作日程 / 9月11日（月）～25日（月） 午前9時～午後4時 於関西学院キャンパス（建物内は不可。休日可）。

(5) 参加資格 / なし。

(6) 参加方法 / 学院正門受付で応募票を提示。（その場でも入手可）

(7) 作品提出期間 / 10月12日（木）～15日（日） 午前10時～午後3時（郵送の場合は15日必着）。

(8) 提出場所 / 関西学院宗教センター。

(9) 審査委員長 / 石坂春生。

開発表 / 10月25日頃に直接通知。特選10点、入選30点。

開表彰 / 11月4日（土）午後12時30分から宗教センターベイツホールラウンジにて。展覧は11日（土）まで。

〇問い合わせ / 関西学院企画部 ☎0798(53) 6111



## 国際観光都市神戸

# 〃神戸の特徴を生かした

# 新しい観光文化都市の創造を〃

□座談会出席者 △敬称略・アイウエオ順▽

泉 寿夫 (JTB三宮支店長)

奥田真弘 (天恵工業月光園社長)

嶋田勝次 (神戸大学工学部教授)

中内 力 (神戸ポートピアホテル社長)

室田民雄 (神戸国際観光協会専務理事)

港町神戸が、国際観光都市として変貌をしつつある。神戸の良さを、我々市民もよく知ったうえで、観光客を迎え入れることのできる環境を整備する必要がある。今日は、神戸観光に関りが深い5人の方々に、いろいろな角度から、国際観光都市神戸のあり方について語っていただいた。

★他都市にない、神戸独自の観光ファクターは何か

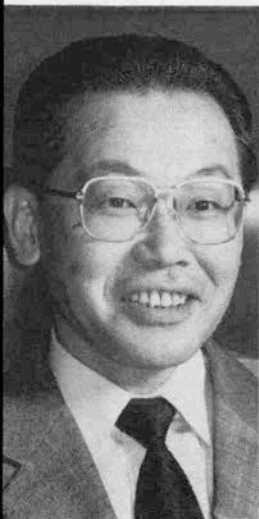
室田 神戸は何と言っても自然に恵まれています。海、山、坂があって、地形が良くて明るい。また、明治の開港以来、外国との窓口になって、多くの西洋文化を受け入れ、市民もそれを十分に消化し、共に暮して来た。こういう地形的な利点と市民性の両面から、観光都市として成り立つファクターがあったのではないかと思います。

嶋田 神戸といったら、海があつて山がある、他の都市にないのは、そこではないかと。で、これだけは、作られないから、そういう意味で、神戸は強いんじゃないかと。それと、神戸っ子は、物にこだわらないところが、いいんじゃないかと。魅力だと思うんですけどね。知られてないだけで、だから、観光客が、来て良かったなあと思ってくれるのは、まず海と山と人柄だと思つてますね。

奥田 神戸の観光がこれ程盛り上がったという現象が、ポートピア81のときにありましたね。行政の方もポートピア81のあと、一兆円というような経済効果がわかってから、これは力を入れてはいけないということになりましたね。いろいろな大都市を見てきたが、神戸は海があり、山があり、町があり、温泉があるという、これだけの条件を持った政令都市はまずないだろうというのがまずひとつ。81の危機感で民間も行政もキャンペーンをして落ちこみを防いだ。官も民も一体となって動いているという活力ね。それに神戸には夢があるということ。次々と夢を作つては実現している。トータルな神戸の魅力というのは、ハード面とソフト面の整備が着々と進んでいるということで、他の都市にはなく、うらやましがられている。その積極性の積みかさねが今日の成果になっているように思います。

中内 このまえ長野県の松本へ行きましたら、神戸のこ





室田 民雄さん



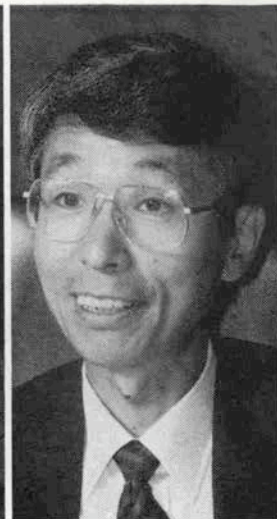
中内 力さん



嶋田 勝次さん



奥田 真弘さん



泉 寿夫さん

とはよく知っている。ポートピアホテルの名まえも、全員知っていて、心強く思いました。ところが、行ったことのある人は10人中1人だけで、9人は訪れていない。イメージが先行して行動に結びついていない。ここが問題点ですが、また大きな可能性とも言える。

泉 神戸はイベントに成功した町だと思えますね。ポートピア博であり、ユニバーシアードであり、また、神戸まつりなどですね。それと近年、ハード面も充実して来ている。一番充実したのは、ホテルではないかと思うのですが、それ以外に海洋博物館とかワイン城などをつくって来られた。

世の流れとして、都市観光が増えて来ます。たとえばニューヨークやパリ、こういった都市に観光客が集まる流れが最近ありますね。勿論リゾートもありますが、都市型観光の波に乗って来たと言うことですね。

それは、「見て、食べて、遊ぶ」ということで、この世界的な流れに、神戸もうまく乗って来たと思います。中内 観光には、観客席と舞台があるという。観客席としてのホテルは充実しつつある。しかし、舞台が不足している。イベントも増え、ハード面もだいぶ充実している。神戸の観光はある意味で人工的に作られてきたものだと思う。京都とは相当異質な観光都市ですよ。

奥田 今年になりましたから私共の協会は、以前神戸市観光旅館協会だったんですが、神戸市観光ホテル旅館協会になったんです。これは同じ宿泊産業じゃないかというところで、オール神戸という立場から垣根をとりはらった。とにかく、たくさんのお客さんが神戸に来られてよかったと喜んで帰っていかれる。女性が圧倒的に多いです。(笑)。

中内 ホテルと旅館が垣根をとりはらうというのは、全国でも、おそらく神戸がはじめてでしょう。ホテルと旅館が一体となってキャンペーンするというのは、画期的なことで、なんでも新しいことに積極的に取り組むという、神戸の特徴ですね。



## ★女性客に人気のショッピングとグルメ。

奥田 全くの特色だろうと思いますね。京都での会議で「さすが神戸だ」と驚かれた。ただこれからも他都市でできないでしょう。何故ならオーナー社長がいるホテルが非常に少ないから。これからどうしていくのかとても大切です。商いはシビアですけれども、全体の力としてやっていくことが大切です。

室田 私どもの目標は、神戸に観光客がたくさん来ていたでいて、町が活性化することですから、ホテル・旅館が一体となり、一つの受け皿となっていたくことは心強いですね。

泉 先ほど都市型観光といいましたが、やはり、常にモノをつくって行かないといけないですね。神戸には歴史的に古い建築物や遺産があまりありませんので、神戸を常に注目させて行くためには、新しい施設をつくるなり、イベントを打つなりして行く必要がありますね。今、レジャーワールドの構想がありますが、これも観光客を外から呼び込む手段にはなりますね。九月にはフェスビック神戸大会が開かれますが、常にこういうイベントをやってマスコミや一般の人の注目を浴びていることが大変重要なんです。そうでないと、いつか忘れられてしまうことになる(笑)。

今は、まさに観光地間競争の時代ですから、常に神戸からイベントや情報を発信して行くことが大切です。

中内 イベントの時には、人が集まるが、一過性におわるというのが問題だと思う。その意味では、レジャー・ワールドとか明石架橋、それに淡路島にできるフランス革命二百周年記念のシンボルの寄贈というのがある。デザインの寄贈だけだそうでお金は日本で集めるのですが、これらの恒久的な観光資源が、21世紀に向けて建設される。奥田 イベントは実のところこりこり(笑)。一過性に

終わってしまうので、終わったあと困るんです。恒久的なものはどうしても必要になってくる。やはり何か神戸というものを全国ネットで売るのが必要ですね。もうひと

つは神戸まっりの観光イベントとしての対応が、どうも少ないと思う。京都の祭りのように、神戸まっりも市民局の手を離れて、ちよっと観光の目玉としてやられたらどうか。毎年のことでもあるし、花火大会もしかり。

嶋田 僕は神戸でね、もうちよっと、いい建物を作られへんかなあと思うわけです。一流の建築家に造っていただきたいと…。そう思いますね。それも、神戸へ折角来てんから、あの建物を絶対見なあかんねんと観光客に思わせる位の…。以前、運動したんですけれどね…。アメリカの建築家に頼んどったんですけれど…。出来なかったですけれどね。(笑)

中内 ポートピアホテルのダ円型というのは、おそらく日本で始めてのものだったであろうと思います。建築物を大切にするとあると思いますね。

奥田 オーストラリア・シドニーのオペラハウスなどもそうです。

嶋田 やっぱりオーストラリアのシドニーに行ったら、あのオペラハウスを観ないかんという風に、ね。それよりね、神戸大学の学生はね、神戸に出て来た時、まず、食べもん食べたい、いうんですよ。それも日本食、洋食、中華と全部食べてみて、やっと神戸へ来たな、と思うらしいんです。

中内 ニースへ行った時、ブイヤベースを食べて、ああ南ヨーロッパに來たんだなアと思ったが、やはり神戸に來たら神戸ビーフと中華料理ですね。それとフランス料理じゃないでしょうか。

泉 最近の傾向として主婦を含めて、女性客の使われるお金の量が増えて来ますね。神戸に観光客が増えているのは、女性を引きつける魅力を持っているということで、それはショッピングであり、グルメということですね。勿論、風見鶏の館をはじめ素晴らしい観光施設もあります。女性が興味を持っているのは、ショッピングとグルメ。この層を引きつけているから、神戸は観光都市として浮上しているのだと思います。



中内 ファッショントウンができたけれども、ファッショントウンに人が集まらない。最新の神戸ファッションを見に来て頂くためにも、展示場が必要ですね。即売ができれば、更にはいいのですが。

室田 十年前の昭和五十四年、神戸の観光客は一五〇〇万人でした。十年後の現在は二二〇〇万人から二三〇〇万人。十年間で一・五倍になっています。

昭和五十六年のポートピア博のときは、その年だけで三〇〇〇万人。六十年にユニバーシアード神戸大会をやりましたが、このときには二〇〇〇万人台に乗りました。

これを見ますと、大規模なイベントによって観光客が増えたということ、ホテル、旅館、観光施設などの「受け皿」が整備されたということが言えます。

勿論、前提として旅行をしようという、あるいはたとえばグルメツアーに参加しようという、参加者の環境というものが、色々な面でよくなって来たと言いうことがありますが、イベントが契機となったということも言えますね。

それと最近までは、若い女性が多かったのが、昨年ぐらいいから各層が均等になり、若い人も中年層以上もそれぞれ、二十パーセント台になっています。しかも団体よりも少人数のグループで来られる人が多くなっていますね。個性的な志向で、何かを見たい、何かを食べたい、ショッピングしたいという自発的な意思で来られる人が増えて来ています。

奥田 小グループが来るのはいい傾向だが、逆になぜ団体客がなぜ来ないのかということにもなる。とにかく駐車場がない。ハード面でもこの点は大きな問題ですね。団体といっても農協のグループの感覚とは違いますが。泉 今後のことを考えますと、一つは大きな団体を受け入れる施設をつくっておかないとダメだと思っていますね。と言うのは、国際会議など大きなコンベンションになる和二千人、三千人と人を引っ張って来れます。今度、レジャーワールドという大きな施設が来ると、たくさん

人が来ると思いますし、そういう大きな団体をにらんだ戦略を持たないと、大きく飛躍するのは難しいのではないかと思います。コンベンションや企業の周年記念事業などを常に呼び込んで来る戦略を常に持つことが、どうしても必要になって来ると思います。それが神戸に行っても駐車場がないし、団体が楽しむところもないとなると、今後の可能性は開けて来ないと思いますね。

中内 国際コンベンション都市神戸としては、都市間競争の時代でもあり、団体客を受け入れやすい環境が必要になってくる。他都市が後発であるにもかかわらず、神戸以上の施設をもつようになってきている。神戸も競争にうち勝つためには、駐車場やコンベンション施設の充実に、力を入れなければいけない。コンベンションと観光は裏表の関係である。神戸に行けば、どんなエクスカーションがあるのか、ということを開かれる。

奥田 外国からのお客さんが来たとき、温泉に入るというのは、一つのファクターになるでしょうね。

中内 たたみの上で一泊するとか温泉に入りたいとかの希望は多いですよ。布団で寝る、たたみの上で食事をすると、といった需要が今後ますます増えてくると思います。奥田 一泊の人が多いですね。今の外国の方は殆んど企画招待が多いんです。有馬も含めて、これからは長期滞在型の観光が楽しめるように神戸もしていかなければならない。

嶋田 神戸を拠点にして、ちょっと、観光巡りをしてもらうと…。

中内 統計によると、観光客数は二千二百万人。その内37%が宿泊客ということです。八百万人が神戸に泊っていることになる。ところが一泊が殆んどです。二泊、三泊して楽しめるだけの受け入れ体制がなければ、お客さんは帰っていつてしまわれるんですね。

★ウォーターフロントがこれからの神戸観光の鍵

泉 神戸には、夜を楽しめる場所が少ないですね。たと



えばニューヨークに行ったらミュージカルがあり、パリへ行ったらムーランルージュがありといったところですね。食事のあと、女性客にも楽しんでもらうにはどうすればいいか、ということですね。都市型観光には、これがセットされているものです。また文化的な催しをもっともったった方がいいですね。大きなところでは、ザルツブルグやバイロイトの音楽祭などがありますが、そこまで行かなくても、こういったものがセットされておれば、都市型観光としては最高ですね。

中内 基本的に考えておかねばならないのは、集中と分散です。機能的に集中させるべきものは集中させ、分散させるべきものは分散させる。このポリシーをはっきり持ってハード面を整備していかなければならないと思います。分散した施設間のアクセスを充実させて、個々に特性をうちだして、全て活性化させるように。

泉 集中と分散ということでは、たとえばワシントンでは博物館が集中しています。順番に見て行けるようになっていています。観光客にとっては、集中がいいに決っていますね。集積すれば、それだけ魅力が増します。

奥田 ハード面がいくら整備されてもソフト面がやはり大事ですね。特に人が大切。観光関連産業のスペシャリストを養成する学校が、せめて神戸にできないかと思う。大学とまではいなくても、短大とか専門学校規模で教育できるものがあればいい。神戸でもこれからそういう人材が必要になってきますよ。

嶋田 それよりね、今年は、パリ200年祭ということで、パリをどういう風に見習うかということですね。200年の為に塔をたてるとか、建物を作り替えるとか全部やりますからね。神戸も、あれをちよっと見習えないかな、と思いますね。古くさい街を、新しくするとか、古いものは、古いなりに、何かせなあかんと思いますね。(笑)。中内 スイスのローザンヌや、ニューヨーク州にあるコーネル大学のホテル学科などが有名ですが、それくらゐ世界的なホテル学校ができれば素晴らしい。

嶋田 これまでの学校みたいにな、受験したら入れてや

る、そういうのはやめて、特殊な学校一ぱい創ってもらいたいと思うんですね。

室田 大きなものを集中してつくるということは、他都市に対して神戸の地位というものを誇示するという意味で非常に大事だし、人も集まると思います。私たちがやっていることに地味な仕事の一つあるんです。分散している観光施設が市内にたくさんあります。寺社など古いものから水族園など新しいものまで色々ありますが、それらが散在しているのは観光客にとって非常に不便です。それで、たとえば西部地区観光施設協議会というのをつくって、ここでお寺や須磨の海つり公園、須磨水旅園など須磨区、垂水区、西区という、かなり広域に分散しているのを、うまくネットワーク出来ないかということをやっています。ですから一つは、観光施設の情報ネットワークとか、物理的なタイアップ、出来れば周遊のルートをつくる。将来的には交通アクセスを考えて行くということになるでしょうが、こういうものをつくって行きたい。

もう一つは、神戸の特性から言って、ウォーターフロントを含めて瀬戸内の活用、開発が必要になって来ると思います。関西新空港が出来る、また明石海峡大橋が完成するというインパクトがあるわけです。海を観光資源にすることが大きな課題となつて来ます。具体的に申し上げますと、たとえば須磨から舞子にかけての海岸線を、リゾートパークとして、どう考えて行くかということがあります。

垂水海岸のマリノベーションにタワー状のホテルなどをつくる構想があります。また関西の関係ではCAT(シティ・エア・ターミナル)、つまりカーゴ・ターミナルを受け皿としてつくって、そこに色んな業種を貼り付けて二十四時間体制をとる。神戸は海に対して恵まれた地形ですから、都市の発展は海が担っているとさええると思います。

△於・ブランドウブランにて▽



田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作  
神戸市中央区港島中町 6-3-2  
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上 勉  
神戸市中央区港島中町 6丁目 5-1  
TEL (078) 303-3311



キャンペーン「神戸の観光と魅力を探る」の  
企画は以上各社の提供によるものです。



7月20日より新造船あさぎり丸就航！(予定)  
10月にあさかぜ丸、12月にはあさしお丸続々就航予定。

# 潮風のドライブ 淡路島・四国へ リフレッシュ明石フェリー



総トン数 1,274トン  
全長 65M  
全幅 14M  
主機関 2000PS×2  
航海速力 14.6ノット  
旅客定員 467名  
車両積載台数 トラック18台  
乗用車2台

## 明石今岩屋

海上25分/終夜運航  
京阪神より日帰りコースに最適

**MC** 明岩海峡フェリー株式会社

本社事務所 明石市中崎2丁目7番1号  
☎(078)911-2622(代)  
岩屋営業所 ☎(0799)72-3232



# 双胴高速クルーザー くいーんろっこう 中突堤より就航。



全長 33.2M 速力 時速55K  
全巾 9.0M 定員 146名  
総トン数 217トン  
所有 淡路フェリーポート

**A** コース ~~~~~  
淡路島一周コース  
大人7800円 小人半額

**B** コース ~~~~~  
大阪湾周遊コース  
大人3900円 小人半額

●DXクルーザー くいーんろっこう  
によるサマーナイトクルージング  
8/11~8/20 19:00出航 90分間

**C** コース ~~~~~  
神戸湾内外周遊コース  
大人2500円 小人半額

くいーんろっこう

**神戸港中突堤営業所**

〒650 神戸市中央区波止場町5-2  
TEL.(078)333-6700・6710 FAX.(078)333-6711



## 経済ポケット ジャーナル

★灘神戸生協の首脳人事が決定。

灘神戸生協は新設の理事長職に高村勲組合長が就任し後任の組合長に竹本成徳専務理事が昇格することを決定した。

今回の理事長職の新設は業務の複雑化の中で組合長に集中していた役割と権限を分担することによって、業務の効率化を図っていくことが目的。

新組合長の竹本氏は営業部門、管理部門、人事などを担当、実務面に精通している。役員経験も長く、寄せる期待は大きい。



理事長に就任する高村勲氏（左）  
と新組合長の竹本成徳氏（右）



★音と映像の新しいクリエイティブスペース誕生

映画東亜特殊電機は新本社「TOA-PIビル」（神戸ポートアイランド）内に音と映像の新しいクリエイティブスペース「XEBEC」（「ジーベック」）を誕生させた。

ジーベックとは17世紀の小型帆船の意味。人工島であるポートアイランドのイメージと合わせて名づけられた。



音の運動場ですジーベック

「多目的に使える最新設備のホール、エネルギー的なパワーが実感できるスタジオ、サウンド感性を磨くブース、くつろぎの自由空間カフェ」個性豊かな4つの

スペースが合体、△音・映像・人Vのトータルコミュニケーションを創造、発信していく。

「おしゃれなイメージのあるファッションタウンの活性化に貢献できればうれしいですね。人が集まる新しい環境空間を提供していきたいと思っています」と、廣田均社長。

あたらしい音に会える、人に会える、夢に会える。「音の運動場」のコンセプトにふさわしい空間である



音と光と映像を自由にクリエイトする  
ジーベックホール。

★エキゾチックな神戸発のお菓子作りを！

映画モロゾフの松宮隆男新社長の就任記者懇親会が去る6月20日、ポートアイランドに開設したばかりの



松宮隆男新社長

「モロゾフP&P（「プーリング・パブリシティ」）スタジオ」で開かれた。

その中で松宮社長は、「神戸の風土の中にあるエキゾチックな雰囲気を取り入れたお菓子作りを大切にしていきたいですね。私たちががんばることにによって神戸のイメージを少しでも高めていけるようになればうれしいですね」と語った。

★KOBEOフィスレディ★

中嶋 美香さん（23）

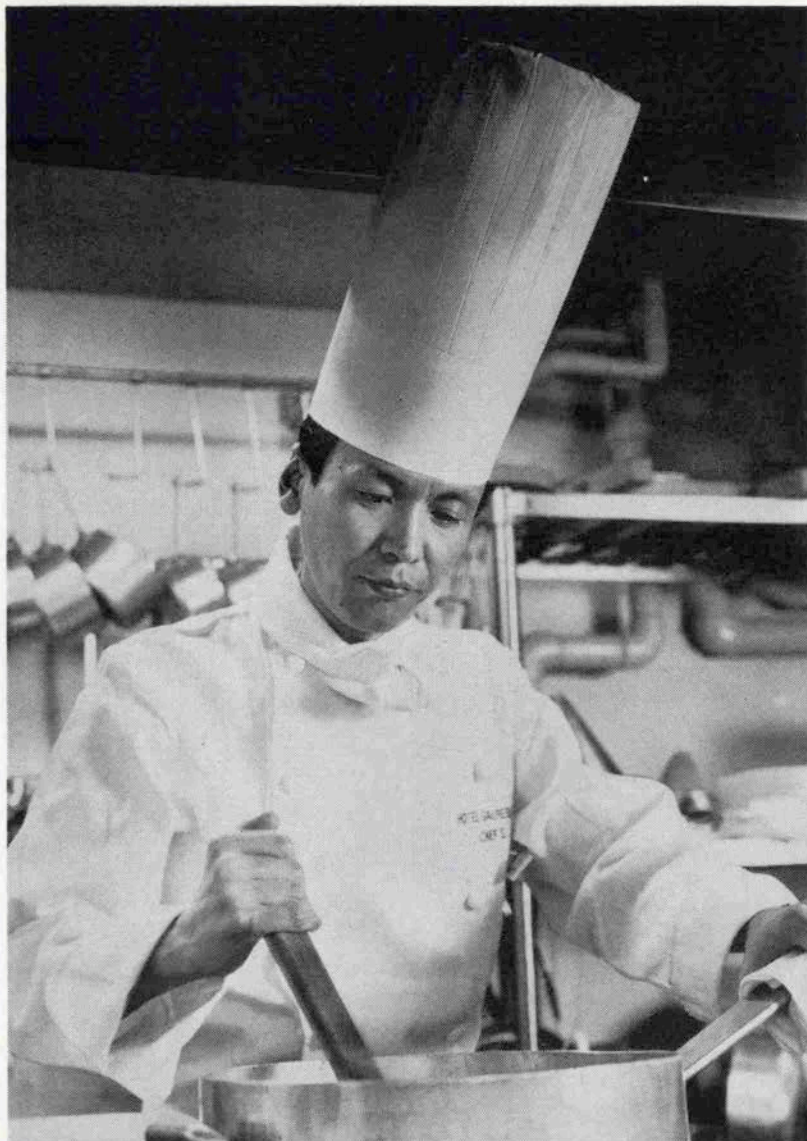
〈神戸ファミリーア  
宣伝部宣伝課勤務〉



ファミリアの宣伝を担当する彼女は、上品で知的な感じのワーキングガール。「撮影等でいろいろな人に出会い、変化に富んでいてやりがいのある仕事です」と、笑顔で語ってくれた。

神戸市在住 獅子座のB型





## シェフ登場

安芸

繁男

〈ホテルゴルフリッツ  
宴会洋食料理長〉

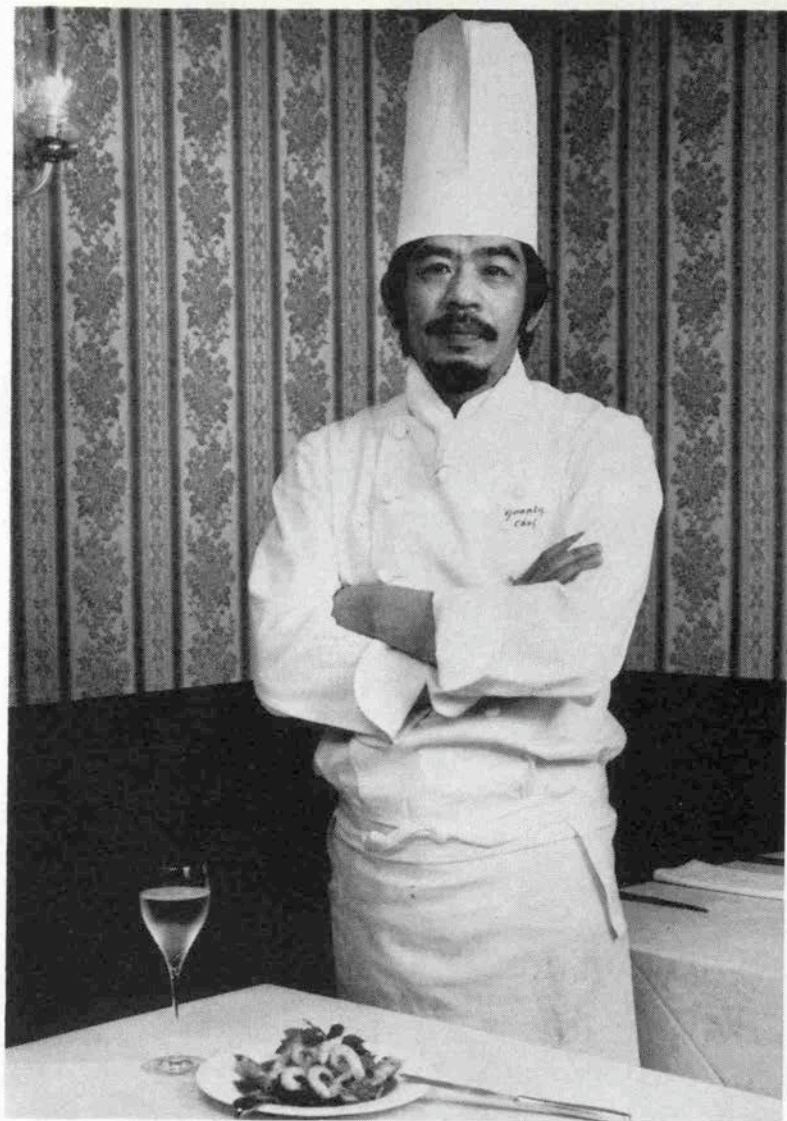
九州・福岡、西鉄グランドホテルから、今年3月にオープンしたばかりの「ホテル・ゴルフリッツ」の宴会洋食料理長として就任された。

印象を御聞きすると「エキゾチックな街ですが、味にうるさいお客様が多いので、大変、気をつかいますね。」と22年のキャリアの風貌を見せる。

これからは、年令層に関係なく、見てくれよりも、より美味しい料理を追究してゆく「神戸っ子」







シェフ登場

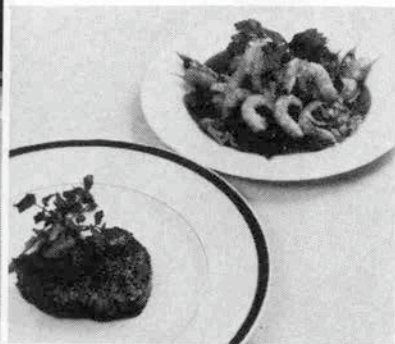
内山

成旭

〈欧風レストラン  
グリーニー北野シェフ〉

グリーニー北野の料理を味わうと、いつもオーナーシエフ内山さんの心意気を感じる。

神戸の口うるさい実質主義の食通は、素材がいきいきと新鮮で、味もセシスもよく、その上リーズナブルな値段で、さらに店の雰囲気も、サービスもよくないと気に入らない。そういった神戸っ子気質をたくみに料理して、有無をいわせない。お客の顔を見て勝負する内山シェフの、体力と智力は大したものである。



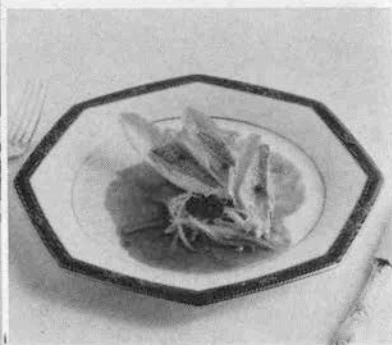




## シェフ登場

### 石川 辰雄〈シェフ・ラ・メール〉

にしむら珈琲北野店のシェフとして日々、努力の人。  
 “お客様を大切に”という川瀬オーナーの心をそのま  
 ま学び取って、誠実なメニューを用意しているのは、  
 やはり、珈琲一筋のにしむらの伝統からか。京都育ち  
 の繊細な季節感と都ホテルでのきびしい修業が、港町  
 神戸で洗練されて、現在のこの人の味を作っている。  
 「どんなにおいしい料理も、お客様の喜びでなければ  
 意味がない」と、今日も工夫を凝らしている。





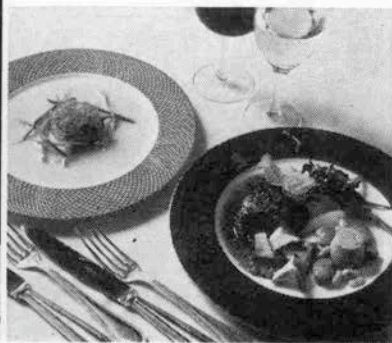


CHEF À LA CARTE  
シェフ・ア・ラ・カルト  
**シェフ登場**

**野村三喜夫**〈フランス料理レストラン  
トウール・ドールシェフ〉

19歳で渡欧、スイス・グロツケンホテル、パリ・ホテルクリヨンなどを経て帰国。調理技術の確かさは、現地でレストランシェフまで務めた実績が示す。

「料理は、素材と素材の結婚。どんなに技法でごまかしても素材同志が喧嘩してしまっただけではおいしいものではないんですよ。」と、材料への執着心はかなりのもの。現在、食レベルの高い神戸で認められるレストランをめざして、スタッフと共に奮闘中の毎日である。





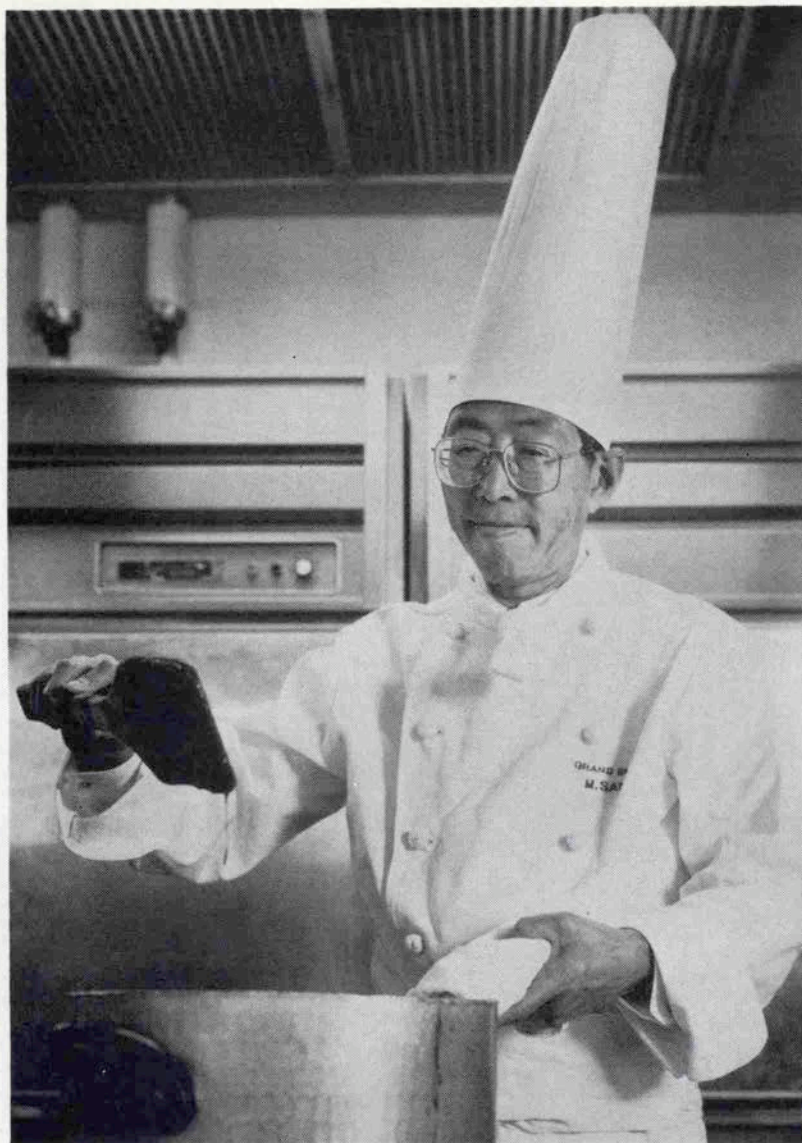
CHEF À LA CARTE  
シェフ・ア・ラ・カルト  
シェフ登場

佐野 幹雄〈神戸ポートピアホテル  
総料理長〉

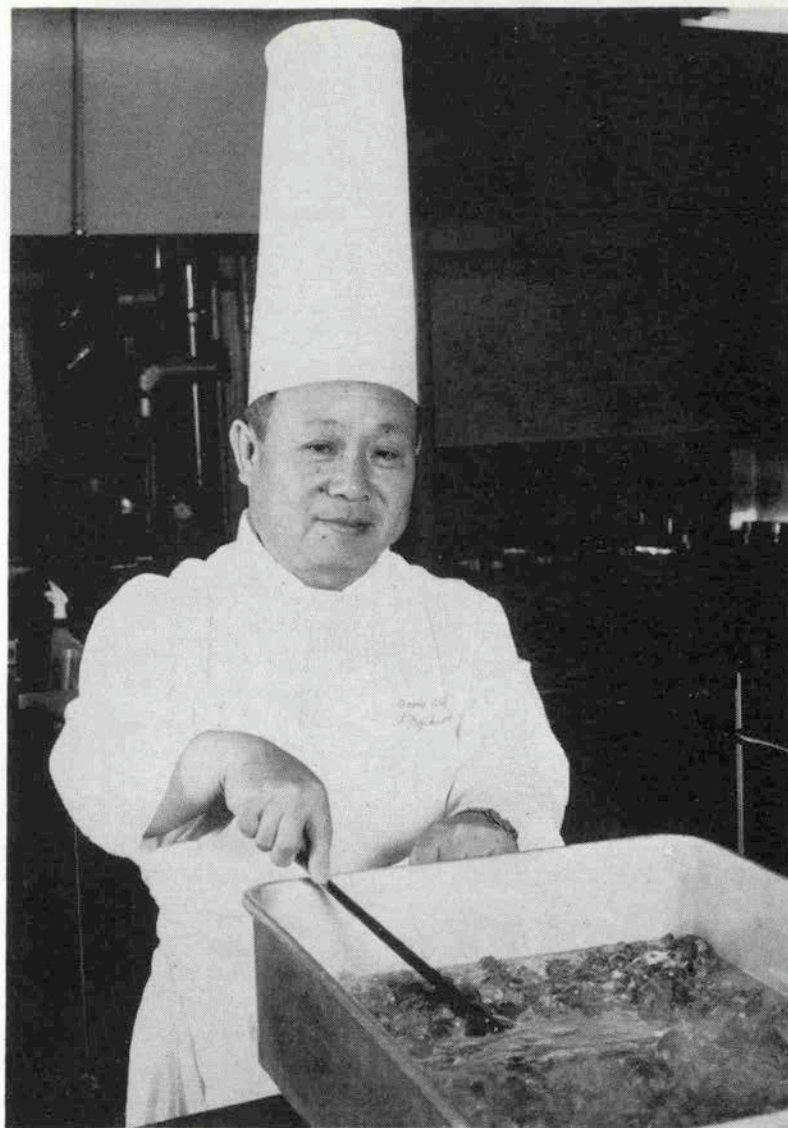
料理のプロの技術を身に付け、料理業界への憧れから、この世界に飛び込まれて、三十五年、現在、料理長約十八名の総まとめ役、神戸ポートピアホテル総料理長を務められる。

お客様は目的を持って、レストランに来るため、新しいものに進んで取り組んで行くそうだ。

センス・季節・素材特長の三つの個性を引き出してゆきたいと言う最後の言葉が、至極印象深かった。







CHEF À LA CARTE  
シェフ・ア・ラ・カルト  
シェフ登場

藤川

滋郎

〈新神戸オリエンタルホテル  
取締役総料理長〉

19才の時から、料理の世界に入られて、去年総料理長として新神戸オリエンタルホテルに移られて来た。神戸での印象は、「神戸のお客様は、舌が肥えられていて、こちらが色々と勉強をしないと難しいですね」とニコやかに言われた。やる気のある若いスタッフといっしょに、質の良い材料を使い、高級指向でハイ・グレードな、見た目も絢爛なセンスの良いメニュー作りに、意気込みが見られた。







シェフ登場

森

道彦

〈ホテルオークラ神戸  
取締役調理部長〉

「絵を見たり、音楽を聴いたり、あるいは美味しいといわれる店へ食べに行ったり……。料理人には、そういった遊び心と、ゆとりが大切ですね」と森調理部長。  
メリケンパークにオープンしたホテルオークラ神戸の味に関する全体を取りしきる。「今の若い人は、頭はいいけど身体で憶えませぬね。」身体に沁みついた技術、五年間の基礎が終れば後は応用である。だからこそ、遊び心とゆとりが大切という森シェフは円熟の域

